

はじめに pp.4~5

### 書籍概要

- ・図説 錬金術 歴史と実践 (吉村正和 著、河出書房新社)
- ・過去に一周流し見はしている
- ・創作やっている人間なので古典的なネタとして押さえておきたいのと、最近化学屋にシフトしつつあるので神秘が化学に変わる過程を識りたいというのもあった。
- ・特に前提知識はないが、高校化学は先に復習しておくことより深みが出ると思う。

### はじめに

金 ← そりゃ欲しい。 ※ 当時は固定レートだったのもあって今の比ではなく金の価値が高い。

そのために……

- └ 世界の探検、新大陸の発見
  - └ そこから黄金を採掘してヨーロッパに供給
  - └ 錬金術
  - └ 卑金属 → 黄金としてヨーロッパに供給
- 2つのプロセスが考えられた。

現代では明白な通り、錬金術は金を作れない  
 ※ 当時の錬金術師すら、一部は錬金術を批判的に見ていた。  
 (※後の化学の観点)



詩作のネタに、もちろん口クでもない意図で

### 錬金術のよく出る単語

変成	transmutation	物質を別の物質に変える
抽出	extraction	物質内部の成分を外に引き出す
完成	perfection	物質が完全な状態になる
生命霊気	pneuma / aqua vitae	物質から抽出しようとする物、最終目的

※ こう並べると、既に 古典化学との類似性が見えてくる。

# 産業と錬金術 pp.6~8

16~17世紀 **産業革命**

↳ **錬金術の基礎技術** (鉱業 鑛業...) が用いれた、  
特に**金属に関する知見は貨幣経済を強く下支えた**

また、**鉱業、製菓業的知見から火薬を発見**  
錬金がさらに発達した。

ゲーテンベルクの**印刷**の発明 → 出版の概念、記録が大量生産でも  
ようになった

錬金術も同時期の出現だったため、**活版印刷を活かして錬金術書が**  
**大量生産、大衆に広まった**

↓  
たまたま錬金術を知った王侯が錬金術師に黄金の生産を命じる、  
それには失敗するがたまたま**白磁**を作れた。

⇒ **アジアへの遠征・交易なしに白磁を手に入られるようになった。**  
ある意味で錬金術のモチベーションと等価な偉業

# 錬金術の実験室

pp.9~12

・錬金術の操作 — **溶解して凝固せよ**, solve et coagula.  
⇒ **火を扱う技術**と等価。

**アイザック・ニュートン** (物理学者であり錬金術師でもあった、そして化学者に)  
著書の中で錬金術師の用いる炉を複数記載  
代表的なのが**アタノール炉**、レンガ製の炉、火と熱源を分離してゆくり加熱  
温度制御性に優れる

炉中に投入する容器はテラコッタ → ガラスに、内部が見えるメリット  
※ **このころのガラスは高級品、しかも強化ガラスなどというものもないので**  
**とても破損しやすかった。** ⇒ 出費がかさむ。

代表的な容器

蒸留瓶 (フラスコ)	素材を入れる
蒸留器頭部 (アラビック)	蒸気をうけとめ冷却
受け器 (レトル)	冷却した物質を回収

錬金術の実験室は蒸留による有毒ガスが充満  
⇒ **深刻な健康問題**がしばしば起きていた。

# 大いなる作業 pp.12~16

。一の操作

ジョージ・リブリ「錬金術の構成」：賢者の石の生成過程を記した詩

12の門→操作工程を示す。

原素材→プリマ・マテリア→白い石→赤い石、と進行していく

- ① 煅焼 金属を灰になるまで焼き、不純物の除去
- ② 溶解 金属灰を液化させる。プリマ・マテリアの溶解
- ③ 分離 四大元素、および精霊/エーテルの分離
- ④ 結合 分離した要素が再び結びつく。「結婚」両性具有をメタファーに
- ⑤ 腐敗 金属が黒い粉末と化し「死ぬ」 (※現代化学の酸化か?)
- ⑥ 凝固 黒い粉末が「浄化」され白い石となる。その後赤い石とする工程もあるが詳細不明(原文ママ)
- ⑦ 滋養強化 金属に栄養を与えて強化する
- ⑧ 昇華 固体を直接気化させる。現代科学のそれ
- ⑨ 発酵 金属も時間をかけて発酵させる(?) (※蒸気の冷却回収のことか?)
- ⑩ 高揚 金属の性質が高められる(?)
- ⑪ 増殖 質の高められた金属が増える(???) (※錬金術の立場でも無からの有は否定的では?)
- ⑫ 投入 赤い石を投げ入れ、金変成を行う

(このようにリストアップすると現代科学にも通じる観点と神秘を超えてオカルティックな観点が混在しているのがわかる。)

## 黒化/白化/赤化

ところで錬金術の過程で「色」は重要視される

上記の12の操作も単純化すると、

{	黒化 (ニグロ)	}	の3つに切り分けられる。
	白化 (アルブ)		
	赤化 (ルビ)		

- ・黒化：「物質の死」、不純物を解体して黒い液体にする
- ・白化：「純粋な状態」、加熱・洗浄で黒い液体を白くする
- ・赤化：「完全な状態」

(赤化にはフェニックスのメタファーが用いられる)

→この過程をもって、金属は死と新生を迎える、と捉えられた?